

受託農作業を20年以上続けておられる認定農業者

今回ご紹介するのは、
豊能町切畑で夫婦仲良く、
二人三脚で農業をされている
東さんご夫妻です。

東 泰弘さん 登喜江さん

毎日、朝から何度も4ヵ所の畑に
野菜の顔を見に行きます。

見るたびに野菜が成長して

顔が変わっていたり、野菜の花が咲いていたり、
大きくなつた野菜を試し掘りしては、
次は何を植えようかと考えるのが楽しいです。



◎認定農業者制度は、農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が地域の実情に即して効率的・安定的な農業経営の目標等を内容とする基本構想を策定し、この目標を目指して農業者が作成した農業経営改善計画を認定する制度。

◎大阪工「農産物」とは、農業と化成肥料の使用を通常の半分以下に抑えて栽培された作物。大阪府が認証する農作物だけが「大阪工「農産物」」のシールを貼ることが出来ます。栽培方法などを記載した生産計画を大阪府に提出。その後に実施される現地調査で、実際に使用した農薬や栽培状況を確認。審査を通った作物だけが認定されます。



6月下旬ビニールハウスの中で前日に届いたばかりの苗を植える東さんに取材しました。
8月には立派な大玉トマトが出来るそうです。楽しみですね。



ビニールハウス



アンデスレッド
(ジャガイモ)



オカワカメ

サツと茹でてポン酢と和えたり、味噌汁に入れるなど手軽に食べられるオススメの野菜です。



米ナス(なす)

「米ナスはうちのブランド」と言われるほど東さんの代名詞ともなる野菜。畑にはご夫妻で協力して立てた支柱があり、8月には大きくて立派な米ナスが実ります。



イタリアン
パセリ



オカヒジキ

東さん夫妻に「農業の楽しみ」についてなんですか。」と質問してみると、登喜江さんが「毎日朝から4カ所の畑に野菜の顔を何度も見に行きます。見るたびに野菜が成長して顔が変わっていたり、野菜に花が咲いていたり、大きくなった野菜を試し掘りしては、次は何を植えようかと考えるのが楽しいです。」と、栽培しているアンデスレッド(ジャガイモ)の試し掘りをしてくださいました。土から立派な赤いアン



の東泰弘さん。農業歴の長さに圧倒されました。また泰弘さんは豊能町農業受託協議会のメンバーでもあり、豊能町内の希望者の田んぼで稲刈りなどの農作業を代りに行う受託農作業を20年以上されています。

農業の楽しみ。

東さん夫妻は水稻栽培はもちろん。豊能町切畑で4カ所の畑にて野菜の栽培をされていて、6月下旬の畑には珍しい品種や色とりどりの野菜が並んでいました。

ウスの倒壊等だけでなく、露地で栽培していた野菜にも影響が出ました。立てていた支柱なども倒れたり、栽培していた野菜も飛んで行つてしまったりしたそうです。大切に育てた野菜が出荷出来なくなってしまったのはとても心が痛まれたそうです。

東さん夫妻に「農業の楽しみ」についてなんですか。」と質問してみると、登喜江さんが「毎日朝から4カ所の畑に野菜の顔を何度も見に行きます。見るたびに野菜が成長して顔が変わっていたり、野菜に花が咲いていたり、大きくなった野菜を試し掘りしては、次は何を植えようかと考えるのが楽しいです。」と、栽培しているアンデスレッド(ジャガイモ)の試し掘りをしてくださいました。土から立派な赤いアン



キャベツ



トウモロコシ
朝採れにこだわって出荷しています。

農業のベテラン。

「代々農業をしていたので、小さいころから畑作業を手伝つてきました。また、20才の頃に父親が亡くなつてからは、勤めながらも家業の農業を主となつて取り組んでいました。60才で定年してからはずつと農業に専念しています。」とおっしゃる現在72才の東泰弘さん。農業歴の長さに圧倒されました。また泰弘さんは豊能町農業受託協議会のメンバーでもあり、豊能町内の希望者の田んぼで稲刈りなどの農作業を代りに行う受託農作業を20年以上されています。

東さん夫妻に「農業の楽しみ」についてなんですか。」と質問してみると、登喜江さんが「毎日朝から4カ所の畑に野菜の顔を何度も見に行きます。見るたびに野菜が成長して顔が変わっていたり、野菜に花が咲いていたり、大きくなった野菜を試し掘りしては、次は何を植えようかと考えるのが楽しいです。」と、栽培しているアンデスレッド(ジャガイモ)の試し掘りをしてくださいました。土から立派な赤いアン

デスレッドが出てきて、「今年のジャガイモの出来は良いみたい。途中で切れて土に残らずに、全てのジャガイモが出てきた。」と笑顔がこぼれています。

昨年の台風21号

「長年、農業を続けてきましたが、一番大変だったことは昨年の台風21号です。」と話す泰弘さん。4棟あるビニールハウスの内2棟が倒壊し、1棟はビニールが飛んでしまったそう。ハウス内で栽培していた野菜などが出荷できなくなつてしましました。倒壊したビニールハウスはボランティアで手伝つて頂いた方の協力もあり、なんとか撤去出来ましたが、とても大変な作業でした。その上、倒壊したビニールハウスは新しいビニールハウスも含まっていたので損害が大きかつたとのこと。再度建てたビニールハウスには頑丈にするために筋交いを入れて、より丈夫な作りになっています。

「安全で安心して食べられる美味しい野菜を作りたい。」と話す泰弘さん。現在、夫妻で育てらでいる野菜のほとんどが大阪工農産物の申請をしています。畑には珍しい品種を含む多数の野菜が栽培されていて、トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシなど夏野菜の他にもほうれん草などの葉物野菜や、ジャガイモなどの根菜類も大阪工農産物の認定を受けて出荷しています。

大阪工農産物などを含める野菜を栽培する上では、農薬や化成肥料の適期適正使用を行なうことはもちろん、他にも様々な工夫をしています。たとえば、多量の米ぬかを土にまぜたり、撒いたりされています。米ぬかを使うようになつてからは野菜を食べた方より「野菜が甘くなつた」と言つてもらうことが増えたそうです。

他にも、食べた後の納豆のパックをハウス内に置き、香り器にするなど、様々な工夫をされている東さんにベテランの技術を感じました。これからもどんどん美味しい野菜を作つて頂きたいですね。

豊能町切畑は広大な自然に囲まれていて、害獣が絶えないことがあります。この写真は振動や音波でモグラ等の害獣被害を対策する装置です。この写真は振動や音波でモグラ等の害獣被害を対策する装置です。

もともと、機械が好きな泰弘さんは農機具のほかにも多くの機械を扱われ、倉庫にはいくつもの機械が並んでいます。

